エリア ウェッブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL　0553-20-2737
FAX　0553-20-2733

◎ 回覧･配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html
◎ ご意見・ご感想はこちらまで　Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

「子どもの横を歩く」

親には三つの役目があるといいます。「人生のガイドとして子どもの前を歩く。」「保護者として子どもの後ろを歩く。」そして，「友として子どもの横を歩く。」

私たちは，概して，ガイドと保護者の役目は得意としているようですが，友として子どもの横を歩くことには不得手のようです。

子どもの前を歩いていると，子どもとの距離が開いて，「早く」「早く」と子どもを急かしてしまいがちです。子どもは，自分がしたいことを我慢してでも親の後ろを一生懸命に追いかけようとします。反対に，子どもの後ろを歩いていると，子どもの一挙手一投足が危なっかしく思われ，道を踏み外しはしないかとハラハラドキドキし，心配のあまり右へ左へと指示することが多くなります。

子どもが幼い頃は，親の言う通りに行動していますが，自我が芽生え，親から自立しようとする段階になると，親の指図にばかり従ってはいられません。自我が芽生えるということは，自分がしたいことをする，興味や関心があることを追求することでもあります。最初は摂食や排泄といった基本的な欲求から，身体を動かすことへの欲求を伴ったり，物を操作したり，音や絵，文字で表現したりと，その対象は次第に高度なものへと変化していきます。

これは，子どもの心や身体の成長の過程でもあります。子どもの前や後ろばかり歩いていると，子どもの興味・関心，したいこと（欲求）に対する気付きが鈍くなってしまいます。指示ばかり出す親は鬱陶しい存在となり，やがては反発心を呼び起こすことになるでしょう。親として，順調であった子育てに迷いが生じる瞬間です。

そんな時には，子どもの横を歩いてみてはどうでしょう。子どもの歩調に合ってくると，子どもの目線で物事が見えてくるから不思議です。ゆっくりと時間が流れ，それまで見えなかった子どもの心が見えてくるでしょう。

「心の教育」が提唱されて久しくなります。心の問題の多くは，すれ違い，無理解，孤独感，不安，等の感情が根底にあります。日常は意識することもないような，ほんのわずかなこれらの感情が，いつの間にか積もり積もって，思春期という不安定な時期を迎える頃，表に出てくるのだと思います。

「子どもは大勢の中で育てよ」と，昔の人は言いました。近所や親戚との付き合いが頻繁で，また，大家族で生活していた頃には，祖父母，おじ・おば，いとこなど「横を歩く」大人とめぐり会う機会も多かったでしょう。

しかし，一般に，地域とのつながりが希薄になり，家族が少人数化するに連れて，子どもが大勢の人と接する機会は減少しつつあります。その分，いつも身近に生活を共にする父母の役割は，以前にも増して大きくなっていると言えましょう。

両親が仕事を持つ家庭が増え，毎日の生活も煩雑化する昨今ではありますが，時には友として子どもの横を歩いてみてはいかがでしょう。

鹿（か）の子にも
　もの見る眼
　　ふたつづつ
　　飯田龍太

「地域における学校支援」が展開しています

「やまなし学校応援団育成事業」，「放課後子どもプラン推進事業」

平成２０年度山梨県の教育施策「地域教育力向上委員会」の中の「やまなし学校応援団育成事業」と「放課後子どもプラン推進事業」が活動を展開しています。

〔山梨市〕

３つの中学校区ごとに，支援地域本部を立ち上げ，各地域本部のコーディネーターが各小中学校と連絡を取り合い，学習支援にボランティア・メンバーを派遣します。

各中学校区の学習支援の重点は次の通りです。（北中学区）理科活動・図書館活動，（南中学区）英語活動・図書館活動，（笛川中学区）理科活動・図書館活動。

〔甲州市〕

５つの中学校区ごとにボランティア・チームを立ち上げ，全体を統括する地域コーディネーターが各小中学校と連絡を取り合い，登下校などの安全指導，学習補助，校内環境整備，部活動指導などにボランティア・メンバーを派遣します。

〔笛吹市〕

NPO法人「学びの広場ふえふき」に委託して，「放課後子どもプラン」事業を進めています。本事業は，放課後や週末等において，子どもたちの安全で健やかな居場所を確保するために，「放課後子ども教室」等を実施するものです。さらに，「放課後子どもプラン事業」をベースに，学生ボランティアによる授業支援，学校ボランティアへと活動が発展しています。

<--->

昨今，学校に求められる役割が大幅に増えている状況の中で，これからの教育は，学校だけがその役割と責任を負うのではなく，学校・家庭・地域が連携協力のもとに進めることが不可欠とされます。これらの状況を踏まえ，本事業は学校と地域との連携体制の構築を図り，さまざまな側面から教師を支援し，教師が子どもと向き合う時間の拡充を図ることをねらいとするものです。

これらの事業を推進していくためには，ボランティアの方々の協力が不可欠となります。ボランティアの募集が出されましたら，ぜひご協力いただきたいと思います。

新規移転しました！

「山梨市保健センター」，つどいの広場「たっち」

山梨市の庁舎改築に伴い，「保健センター」，つどいの広場「たっち」が新庁舎東館１階に移転しました。両施設は壁をはさんで隣り合わせに造られており，仕切りの壁にはドアが設けられて互いに行き来できるように工夫されています。

保健センター・「3ヶ月検診」

取材した12月19日，保健センターでは生後3ヶ月検診が行われていて，明るく広々とした室内で赤ちゃんをあやしながら，医師の検診を受けたり保健師さんに相談したりするお母さんでいっぱいでした。

つどいの広場「たっち」

隣接するつどいの広場「たっち」の入り口をくぐると，のびのびと思いのままに身体を動かす幼児と，それをやさしく見守るお母さんが出迎えてくれました。子育てアドバイザーの飯島さんは，「新しい施設になってから“たっち”を利用する方が着実に増えています。」と話してくれました。

つどいの広場「たっち」は，毎週月・水・金の午前10時から午後3時まで，つどいの広場「たっち牧丘」は，毎週火・木・金の午前10時から午後3時まで開所しています。

「いのちの学習」

１月２７日（火），山梨市立牧丘第一小学校２年生（２２名）の教室で「いのちの学習」が行われました。「いのちの学習」は山梨市思春期事業の一環として行われたもので，助産師会山梨県支部の助産師の佐藤さん・森さんが講師として授業をされました。

ゲームで心と体をほぐした後，「あなたにとって一番大切なものはなあに？」という問いに対して，子どもたちから「いのち，お母さん，家族，こころ・・」などの答えが元気よく返ってきました。そして，かけがえのないものの中から「いのち」を取り上げ，学習は本題へと入って行きました。

胎児の人形を抱いて

子どもたちは，針の穴程の大きさから「いのち」が始まって，やがて大豆の大きさに成長し，お母さんの体の中で大切に守られ育ってきたことを知りました。さらに，実際にお腹の中の胎児の心音を聞かせてもらったりもしました。

たくさんの資料や模型を用い，疑似体験なども交えた授業に，子どもたちばかりでなく参観していた大勢の保護者も思わず引き込まれて，いのちの大切さが自然と捉えられた様子でした。

最後に，講師から「生まれてきてくれてありがとう」「命はかけがえのないもの」「生きていることが百点満点」という言葉で学習は締めくくられました。

本時の授業を通して，子どもたちの心の中には，きっと，「命は大切なものなんだ」「自分は大切な価値ある存在なんだ」という気持ちが芽生えていたことと思います。

家庭教育支援峡東チーム主催

「母と子の心ぽかぽかコンサート」

「おうちのリビングで聴くようにリラックスして音楽会を楽しんでみませんか」をテーマに，「母と子の心ぽかぽかコンサート」が２月１０日，甲州市民文化会館で開かれました。

午前１０時の開演時間が近づくと，子どもを腕に抱きかかえたり乳母車に乗せたりしたお母さん方，お年寄りの方が続々と来場して，準備していた１９０席はあっという間に埋まりました。小さな子どもたちがくつろげるようにと用意したフロアマットスペースも乳幼児であふれ，最終参加者３５２名という大盛況の中でコンサートは始まりました。

前半は，「愛のあいさつ」（エルガー），「ヴァイオリンとピアノのためのソナタヘ長調 KV376 第１楽章」，「ユーモレスク」等クラシック音楽を堪能しました。

後半は子ども向けの曲目です。「ミッキーマウスマーチ」「小さな世界」に続いて，「となりのトトロ」ではあちらこちらで合唱が起こり，「さんぽ」では用意したリズム楽器を手にした子どもたちとの大合奏となりました。牛山さんは観客席の中に入って，聴衆に語りかけるようにヴァイオリンを演奏し，西方さんは自分の子育て体験をトーク，また，両者ともに休憩時間にはホールにとどまってお母さん方と談笑するなどしてくださったこともあり，コンサートはいっそう盛り上がりました。

演奏の合間に幼児と談笑

【参加者の声 アンケートから】

○先生が客席を廻って弾いてくださるのが良かったです。子どもたちが自由に音楽に合わせて歌ったり身体を動かしたりすることができ，よけいな神経を遣わず大変良かったと思います

○子どもと一緒に歌ったり，普段あまり見ることや聴くことができない楽器や曲に触れることができて良かったです。

○最近，わが子が音楽に合わせて歌ったり踊ったりするので，是非参加したいと思っていました。

○毎年，このようなコンサートを開催して欲しいです。

笛吹市俳句会表彰式

１２回目となる「笛吹市小学生・中学生俳句会表彰式」が，１１月２３日（日）同市境川総合会館で行われました。北は北海道，南は鹿児島県から小学生 9,801 名，中学生 6,695 名から計 16,496 句の応募がありました。俳句誌「白露」同人６人が 2,037 句を選び，最後に本審査として「白露」主宰の広瀬直人先生により入選作品９９句が選ばれました。文部科学大臣奨励賞と知事賞，管内在住者の上位入選作品を紹介します。

知事賞（中学生の部）の表彰

【小学生の部】

文部科学大臣奨励賞

「さむがりのみのむし木からおちちゃった」
鈴木太都さん（埼玉県西部学園文理小学校１年）

笛吹市長賞

「夏空にきれいな星が一人旅」
椎野彩菜さん（笛吹市立境川小学校５年）

特選

「雨の前ツバメが低く飛んでいる」　村上ダニエルさん（笛吹市立石和東小学校５年）
「夏の海砂浜にある白い貝」　小林聖子さん（笛吹市立一宮南小学校６年）
「くらやみでかぶともぼくをみつめてる」　川部隼平さん（笛吹市立境川小学校１年）

秀作

「青い海見ながら食べるかき氷」　中村侑真さん（笛吹市立御坂西小学校４年）
「おぼんの日ちょうちょになって来たばあば」　雨宮眞広さん（笛吹市立一宮西小学校２年）
「ゆうがたにせみがうかするときをまつ」　白澤勇斗さん（笛吹市立一宮北小学校１年）

【中学生の部】

文部科学大臣奨励賞

「稜線に積乱雲が立ち上がる」　篠原美雪さん（韮崎市立韮崎西中学校３年）

山梨県知事賞

「大好きな祖母に教わる盆おどり」　椎名　彩さん（千葉市立新宿中学校１年）

笛吹市議会議長賞

「夕焼けが私を明日へ連れて行く」　内田有香さん（笛吹市立石和中学校２年）

特選

「赤々とつつじが光る東寺かな」　萩原瑠菜さん（笛吹市立御坂中学校３年）

秀作

「万緑の中に見つけし南禅寺」　小池桃子さん（山梨市立笛川中学校３年）
「シャボン玉透きとおる青海のよう」　雨宮菜摘さん（笛吹市立石和中学校１年）
「風吹けば後ろで柿が落ちる音」　土橋祥子さん（笛吹市立御坂中学校２年）
「あさがおのつゆが輝く午前五時」　岩間雄星さん（笛吹市立一宮中学校２年）
「大波が夏の思い出消していく」　三枝なつみさん（笛吹市立浅川中学校１年）

主宰者の広瀬直人先生から，「小中学生の俳句として，どこにでも自信を持って出すことができる作品ばかりである。」というお話の後，特に，文部科学大臣奨励賞の２つの句については次のような講評がありました。鈴木太都さんの作品「さむがりのみのむし木からおちちゃった」については，言葉の表現が場面に合っており，正直にやさしい心で見つめている。また，篠原美雪さんの作品「稜線に積乱雲が立ち上がる」については，身近なたくさんの風景から，山からわき上がる入道雲だけを切り取り，それを「立ち上がる」という生きている人間のようにとらえ，いい言葉で表現している。

小中学生の皆さんには，「身近にあるものの中から，あるものをふっと取り上げて俳句を詠んで欲しい。」と，締めくくりをされました。

主宰　広瀬直人先生